

事例8 バーチャル美術館を活用し、作品との出会いを広げる事例

- 学年 第1学年
- 主な領域 鑑賞の活動
- 事例のポイント

- ①学校にいながらにして実際にその場にいるかのように世界中の美術作品を鑑賞できるバーチャル美術館を活用することで、生徒と美術作品との出会いを広げる。
- ②対話型鑑賞を通して、美術作品の見方や感じ方を広げる。

ICTを活用した主な学習場面

- ・バーチャル美術館で、作品を探す場面
- ・気に入った作品を高精細画像で鑑賞する場面
- ・高精細画像に書き込みながら鑑賞する場面

ICT活用の利点

- ① バーチャル美術館を活用することで、実際にその場に行ったような臨場感を味わい、世界の美術館と自分との関わりを身近に感じることができる。
- ②気に入った作品を拡大し、細かい部分まで鑑賞することができる。
- ③画像に人物の台詞やストーリー等を書き込みながら、楽しんで鑑賞することができる。

1 題材名 「名画をよく見て感じて、語り合おう～オルセー美術館に行こう～」

【第1学年】B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ 鑑賞の活動

2 題材について

- (1) 生徒の実態 (略)
- (2) 本題材を指導するに当たって (略)

3 目標及び評価規準 (※〔共通事項〕(1)ア、イはア_____、イ_____で示す。)

(1) 題材の目標

- ・形や色彩、光などが感情にもたらす効果や、描き方の特徴、作風などを基に、作品を全体のイメージで捉えることを理解する。 (知識及び技能)
- ・描かれている人物の状況から自分なりの物語を想像したり、作風のよさや美しさを感じ取ったりすることで、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・美術の創造活動の喜びを味わい、作品の中に入り込んで自分なりの物語を想像したり、話し合ったりする鑑賞の学習活動に取り組もうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知形や色彩、光などが感情にもたらす効果や、 <u>描き方の特徴、作風などを基に、作品を全体のイメージで捉えることを理解している。</u>	鑑描か <u>描かれている人物の状況から自分なりの物語を想像したり、作風のよさや美しさなどを感じ取ったりすることで、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。</u>	態鑑美術の創造活動の喜びを味わい、 <u>作品の中に入り込んで自分なりの物語を想像したり、話し合ったりする鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</u>

※それぞれの評価規準は「内容のまとまりごとの評価規準 (例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている。(下線部は変更箇所)

4 指導と評価の計画（全2時間扱い）

○：指導に生かす評価、◎：全員の学習状況を記録に残す評価

時間	学習のねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等			備考
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
		知	鑑	態鑑	
1 【本時】	<ul style="list-style-type: none"> ・バーチャルでオルセー美術館に行くことで、美術館や美術作品に対する興味関心を高める。 ・バーチャル美術館でルノワールの作品を探し、自分の気に入った作品を高精細画像でじっくり鑑賞し、感じたこと考えたことを他者と共有する。 ・バーチャル美術館でルノワールの作品に出会うことで、作品に対する興味関心を高める。 	○ 観察 対話	○ 観察 対話	◎ 観察 対話 記録	<p>「知識・技能」はルノワールの表現はどのようなものかを考えているかという視点で指導に生かす。</p> <p>「思考・判断・表現」は自分が気に入った作品についてじっくり鑑賞し言葉にできているかという視点で指導に生かす。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」は、ワークシートの記述をもとに美術館や美術作品に興味・関心をもつことができているかという視点で評価する。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「ムーランドラギャレットの舞踏会」を対話型鑑賞でじっくり鑑賞し、見方や感じ方を広げる。 ・高精細画像の作品に人物の台詞やストーリー等を書き込みながら鑑賞する。 <p style="text-align: center;">ICT活用の利点③</p>	◎ 観察 対話 記録	◎ 観察 対話 記録	◎ 観察 対話 記録	<p>「知識・技能」は、ワークシートの記述をもとに、造形的な視点をもつことができているかという視点で評価する。</p> <p>「思考・判断・表現」は、ワークシートの記述をもとに、自分の考えをもつことができているかという視点で評価する。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」は、ワークシートの記述をもとに、ルノワールや印象派について興味・関心をもつことができているかという視点で評価する。</p>

5 本時の学習（本時 1 / 2時）

(1) 目標

- ・美術の創造活動の喜びを味わい、作品の中に入り込んで自分なりの物語を想像したり、話し合ったりする鑑賞の学習活動に取り組もうとする。 〈学びに向かう力, 人間性等〉

(2) 準備

- 教師：PC、プロジェクタ、スクリーン、ワークシート
- 生徒：ICT端末、教科書、筆記用具

(3) 展開

過程時間	学習活動 予想される生徒の 具体的な姿(「 」)	指導の工夫 〔共通事項〕に係る内容 ア____、イ_____)	評価と手立て 【観点】：評価規準(評価方法) ◎：十分満足できる状況 ◆：B評価に達しない生徒への手立て
導入 10分	<p style="text-align: center;">提案 オルセー美術館に行ってルノワールを探そう！</p> <p>1 バーチャルでオルセー美術館の中に入り、自由に見学する。 地図サイト(Googleマップ)でオルセー美術館を検索し、画面右下にある人型のアイコン(ペグマン)を拡大した美術館地図の水色の線上にドラッグする。 「すごい！本当に中を歩いているみたい。」 「美術館の建物も格好いい。」</p>	<p>○クラス全体で臨場感を味わうため、地図サイト(Googleマップ)のルート検索機能を利用し、中学校からオルセー美術館までのルートをスクリーンで表示し、クラス全体でイメージを共有する。</p> <p>○地図サイト(Googleマップ)上でオルセー美術館上空の航空写真を見せるとともに、バーチャル美術館に入る方法を教える。</p>	<p>編 P100 指導計画の作成の留意事項(2)(4)</p>
展開 35分	<p>2 バーチャル美術館の中を歩きながら、ルノワールの作品を自分で探す。 「この作品はさっき見た！」 「これはルノワールですか？」 「全然見つからない…。」</p> <p>3 ルノワールの作品の中で自分が気に入った作品の一つを選び、高精細画像でじっくりと鑑賞し、その作品を選んだ理由や、感じたこと、考えたことをワークシートに記入する。 近くの人と情報を共有する。 「これもルノワールなの？」 「よく見つけたね！」</p>	<p>○いくつかの作品は高精細画像(Google Arts&Culture)で拡大してじっくり鑑賞できることを伝える。</p> <p>○バーチャル美術館の中で「ルノワールを探そう！」というキーワードを伝える。</p> <p>○オルセー美術館の中にあるルノワール作品を5点ほど紹介する。(ルノワール作品は他にもたくさんあることを伝える)</p> <p>○高精細画像を開くと、タイトルと作者名がわかることを伝える。</p> <p>○造形的な視点をもたせるため、高精細画像でじっくり鑑賞する際に、ルノワール作品の色彩や光などの要素にも着目するよう声かけをする。</p> <p>○最後に、バーチャル美術館の中で「ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会」の絵の前に行くように伝え、教科書でも作品を確認する。</p>	<p>【知】形や色彩、光などが感情にもたらす効果や、描き方の特徴、作風などを基に、作品を全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>【態鑑】美術の創造活動の喜びを味わい、作品の中に入り込んで自分なりの物語を想像したり、話し合ったりする鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>◎自分で選んだ作品について高精細画像を使用してじっくり鑑賞し、自分なりの価値を見出している。</p> <p>◆ルノワールの作品がなかなか見つけられない生徒には、一緒に操作し、作品がある部屋まで行く。</p>

事例のポイント①

ICT活用の利点①

ICT活用の利点②

編 P100 指導計画の作成の留意事項(6)

整理 5 分	4 感じたこと、考えたことをワークシートに記入する。	○次時の学習では「ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会」をじっくり鑑賞することを伝え、見通しをもたせる。	【鑑】作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。
--------------	----------------------------	--	--

知＝「知識・技能」の知識に関する評価規準、技＝「知識・技能」の技能に関する評価規準、発＝「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準、鑑＝「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、態＝「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を表す。
 ※【記録に残す評価】は□、【指導に生かす評価】は○で示している。

6 備考

- (1) ルノワール（ピエール・オーギュスト・ルノワール）は19世紀、フランスの印象派を代表する画家。「ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踏会」はオルセー美術館所蔵の代表作。
- (2) オルセー美術館は、19世紀から20世紀初頭、印象派などの作品を中心に収蔵するフランス、パリの代表的な美術館。元々は駅舎として利用されていた建物を改装したもので、その建築様式も見どころのひとつ。